



平成30年5月1日現在
世帯数：812戸(-22)
人口：1485人(-27)
男：711人(-20)
女：774人(-7)

# 就任のごあいさつ

## 第二地区町会連合会会長 春日 孝介



は、19 町会長の代表（＝まとめ役）であって、企業の社長とは異なります。情報の共有化、意思統一に、留意いたします。

2. それでは、どんな事業を誰と、どのように実行するか

①方針、事業の方向付け  
三役＋ブロック長＝課題解決、事業可否等の基本的な進め方を方向付けします。

②①方向付けテーマの具体化  
正副部長＋専門事業部＝個別実行計画策定、役割分担を定め、実行を図ります。

3. 皆さんへお願い

①出来ることを、キッチンと事業化してやり遂げる。曖昧な状態では無理はしない。

②次世代を担う若手の人材育成  
成↓事業部内の役員へ登用等。

③会議等への出席率が低下しています。↓あきらめずに、粘り強く、会の運営を続けて

1. 第一地区の運営について  
今までの地区防災対策のしくみ作りから、地区全体の課題、事業の方向付けに、軸足が変わります。重要なのは、町会の代表＝19町会長とよく話し合い、合意が得られる事業を進めることです。  
私が目指す町会連合会長と

ください。  
④納期のない仕事は、仕事ではありません。↓納期意識を持つてください。  
4. 最後に、先日掘り出し開封したタイムカプセル「未来へのメッセージ」について  
30年前当時の関係者で、12年前に亡くなった父からのメッセージ（宛先…西五町町会長ならびに春日孝介宛）を受け取りました。父の未来への3つの思いです。  
①未来に夢を託したメッセージをタイムカプセルに収納。  
②将来の発展を夢見つつ、松本駅周辺土地区画整理事業を行った。しかし松電、イトーヨーカ堂、井上等大型店の進出により、その当時の住民65戸は5戸に減少。  
松本の玄関口として栄えていくことを願うが、今後の西五町がどうなるのか心配。  
③跡継ぎは、30年後に春日家を守り続けているか？  
父は、30年前に町、家、跡継ぎ等の行く末に、警鐘を鳴らしました。先人たちのほかなる思いに感謝を、そして畏敬の念を抱きました。  
父の思いに、100%大丈夫とは言い切れませんが、第一地区町会連合会長就任の決意を新たにいたしました。

## まちかどフォト

Presented by  
**視聴覚委員会**



4月28日  
「信毎メディアガーデンオープン」  
竣工式・見学会に近隣の皆さんが招待され、テープカットに本町2丁目町会長さんが参加しました。

# タイムカプセル「未来へのメッセージ」掘り出し開封式



平成30年3月17日土曜日午後「未来へのメッセージ」を掘り出した。

列席した数十人の関係者の中には、すでに埋設当時の関係者は少なく、その次世代の方が多くおりました。

カプセルは、公園の南西隅、芽吹きが配がすがすがしい木々の下に並ぶ開道碑の脇から掘り出されました。少しばかり色あせた大きなオレンジ色の球形のタイムカプセルが30年を経て早春の日差しの中に現れ、その蓋が開封されました。

一同見守る中、内部の記念品が取り出され、その後、カプセルを中央に、石段に全員並んで記念撮影をしました。

式典主催は「松本駅周辺土地区画整理事業タイムカプセル掘り出し実行委員会（委員長春日孝介西五町会長）」。



昭和63年3月17日  
タイムカプセル埋設式の様子

さらに、公園を通りがかった外国人の親子連れなど、和気あいあいと声かけ合っの賑やかな記念撮

## 平成30年度 第一地区町会役員 (敬称略)

### 【町会長】

- 本町1丁目 山崎 眞生夫
- 本町2丁目 長崎 俊夫
- 本町3丁目 石塚 栄一
- 本町4丁目 北原 一男
- 本町5丁目 高橋 明利
- 伊勢町1丁目 鈴木 史朗
- 伊勢町2丁目 田多井 健至
- 伊勢町3丁目 深澤 健能
- 分銅町 藤澤 淳次
- 新伊勢町 真島 富男
- 神明町 土屋 忠史
- 国府町 村田 精義
- 西五町 春日 孝介
- 西長沢町 新井 富士子
- 中条中 中畑 康則
- 博労町 伊藤 峯一
- 中町1丁目 羽山 義輝
- 中町2丁目 今井 啓一
- 中町3丁目 伊東 祐次郎

### 【町内公民館長】

- 内藤 英昭
- 都筑 朋彦
- 林 健司
- 岩原 正勲
- 矢口 尚久
- 田中 博
- 犬飼 陽一
- 桐原 崇光 (同左)
- 高嶋 敏行
- 塩原 信一
- 毛利 達生 (同左)
- 花村 麗子 (同左)
- 伊藤 善立
- 飯森 福太郎
- 鷺沢 寿美子 (同左)



平成30年3月17日  
タイムカプセル掘り起こしの様子

影で式典の幕は閉じました。ちなみに、残念ながら中の資料はその場では開けられませんでした。埋設当時は小学生だった中年男性なども会場におりました。記念撮影に引きずり込んだ外国人親子



は、「どこのお国から来ましたか？」と英語で聞かれ、片言の日本語で「コマガネに住んでいます」とニコニコ答えておりました。

## 電車通り

最近、「サステナブル」という言葉をよく見聞きする。「支える」「持続する」という意味の「sustain」と「できる」を意味する「able」から成り「持続可能」と訳す。「持続可能な社会」「持続可能な開発」などいろいろなところで目にすることがあるのではないかと。これほど「持続可能」が取りざたされるといふことは、持続不可能ということだろう。地球規模の環境問題となると、何となく身近に感じにくいだろうが、例えば、家庭の食品ロスという話になればどうだろう。環境省の資料によると、日本の食品ロスは年間621万トン。これは、国民一人当たり毎日、茶碗1杯の食糧を捨てていることに相当するのだという。松本市では、残さず食べよう30・10運動を提唱している。食べ残しをなくす運動なら、私たちもひとりひとり取り組めるのではなからうか。次世代に持続可能な社会を手渡していくために。